

友史会 2026 年 3 月例会

太安萬侶が通った道

2026 年 3 月 15 日(日)

案内：重見泰 学芸課学芸係長

行程：近鉄新ノ口駅→藤原京→下ツ道→松ノ下古墳→多坐弥志理都比古神社・小杜神社・多遺跡
→筋違道→下ツ道→保津・阪手道→鏡作坐天照御魂神社→(近鉄二階堂駅)
→中道下ツ道歴史広場(八条北遺跡)→稗田・若槻遺跡→稗田環濠→賣太神社
→(JR 郡山駅・近鉄郡山駅)→平城京南方遺跡→平城京羅城門跡公園
→平城京左京四条四坊→JR 奈良駅 解散

感想文「3月例会だより」

ようやく春らしく、ウォーキングが楽しい季節となりました。3月15日「太安萬侶が通った道」をテーマに、檀考博学芸課学芸係長の重見泰先生のご案内での歩く例会でした。

今回は、昨年9月の太安萬侶銅板墓誌の国宝指定を記念して、関連する遺跡をたどっていただくということです。

集合は近鉄新ノ口駅。150人近くの参加者を数え、大勢でスタート、「松ノ下古墳」という古くから太安萬侶の墓と言われ、近鉄電車からも見られる塚を見学しました。もちろん墓は、奈良市此瀬町の茶畑で国宝の墓誌とともに発見されています。

道のりは、藤原京の北側から下ツ道から筋違道に入り多神社へ。そして下ツ道を北上し鏡作神社を昼頃に越えて、ひたすら歩き続けて八条北遺跡で重見先生の下ツ道に関する説明をお聞きしました。そしてさらに、稗田環濠と賣太神社を通過して、佐保川を眺めながら、平城京羅城門跡に到着します。その間、古い街路を黙々と歩き、田畑の広がった景観を見て、古く奈良時代とそんなに変わらない風情を感じ取ることができました。きっと太安萬侶も同じ景色を見ていたことでしょう。

なお、歩く例会としては、今回、距離が24kmと、とても長く、ここまでで現在の地名でいうと橿原市、田原本町、天理市、大和郡山市と通ってきました。さすがにお疲れの参加者の中には、行程上、近鉄二階堂駅、あるいはJR郡山駅で途中リタイヤして帰られるように案内されていました。

羅城門の地付近から周囲を見渡すと、何も目立たない田園風景ですが、太安萬侶のいた頃を思うと、平城京は、さぞかし都城の威容を誇っていたのだろうと想像されます。平城京南方遺跡での道路跡、朱雀大路の地割痕跡など辿り、現在の奈良市域、近鉄西大寺と新大宮の南側、三条大路にあたる国道308号にようやく出てきて、見慣れた都会の風景に何だかほっとした感慨にとらわれます。

もう夕刻になり、近鉄奈良線が見えてきた所で、西大寺駅、新大宮駅で帰られる方も出てきて、メンバーは少なくなってきました。振り返ると、藤原京から北上して平城京に至ったわけで、本当に長い道のりでした。新ノ口の多神社付近が太安萬侶の地元でした。そして墓誌によると、平城京の左京四条四坊に邸宅があったとされています。その間の通ったであろう道のりを体験することができました。朝から夕刻まで歩きながら、奈良の都の往時を思い、太安萬侶は、この道中、どんなことを考えていたのだろうか、想像すると面白くなってきます。

重見先生によると、太安萬侶は、従四位下の貴族で六十歳近くの年齢から、自分の足で歩いたのではなく、馬に乗っての道のりだったであろうとのことでした。

JR奈良駅の解散地点に辿り着いたのは夕暮れ時、およそ30人。お互いにお疲れ様と声を掛け合いながら帰路につきました。

重見先生、歩く例会のご案内、ありがとうございました。

奈良県田原本町 島岡弘行

【記録写真】



松の下古墳の説明（右に近鉄電車）



多坐弥志理都比古神社



鏡作坐天照御魂神社



八条北遺跡にて、重見先生の説明



賣太神社にて、重見先生の説明



稗田環濠を歩く



佐保川の側道を歩く



平城京羅城門跡の碑